

JR総連第21回定期大会

職場からの挑戦!

安全な鉄道を創造しよう

美世志会7名の完全無罪を勝ち取ろう！ 憲法9条を守り、広めよう！

JR総連は、6月6-7日、群馬県・水上ホテル聚楽で第21回定期大会を開催しました。今大会はJR西日本・福知山線事故での犠牲者への哀悼と、二度と悲惨な事故を起こさないこと、そのために、徹底した事故の原因究明を通じて安全が何よりも最優先する職場にすることを誓い合いました。

さらに、3年目を迎える「えん罪」JR浦和電車区事件をはじめとした反弾圧の闘い、平和・人権・民主主義を守る闘い、国際連帯の闘いを職場から創り出すことを確認しました。



大会では冒頭、参加者全員で黙祷をおこない亡くなられた犠牲者107名のご冥福を祈りました。

代議員の発言は、全員がJR福知山線事故にふれ、労働現場から安全の検証を行うことを明らかにしました。

JR西労の代議員からは、JR西日本の営利優先の経営姿

勢を糾し、安全な鉄道を創り出すため、1カ月半に及ぶ不眠不休の闘いが報告されました。特に、事故以降も「日勤教育」が会社から指示される中で、職場から「日勤教育」を中止させる闘いを創り出してきたなど、具体的教訓が出されました。

また、JR東海労の代議員からも「JR西労の闘いは、箱根以西において新しい歴史を創り出している」との発言に見られるように、この間の職場闘争の正当性と箱根以西の仲間たちに勇気を与えていることも確認できました。

さらに、1988年に発生した東中野駅での列車追突事故以降、『責任追及から原因究明へ』と、JR東労組が職場から安全の哲学を創り上げてきた教訓も全体で再確認しました。

一方、今年のILO『勧告』をはじめ、日弁連の『警告書』など、反弾圧の闘いは大きなうねりとなって広がっています。JR浦和電車区事件の公判が来年まで続く様相から、もう一度『美世志会』の立場に立って取り組みを強化することや、事件から3年目となる11・1集会の成功に向けた意志統一もおこなわれました。

今春闘では、日本の大労組が早々とベアゼ口要求を決め込む中で、中小労組への連帯を強化してきました。あらためて連帯を再創造することが反グローバルイズム労働運動を推進する上で重要です。

以上の観点から、JR総連結成20年に向けて、その検証運動をおこなっていくこととしました。

また大会では「無理な回復運転はしない」「危ないと感じたら列車を止める」とする「JR西日本の経営姿勢を糾し、安全な鉄道を創造するための特別決議」と「大会宣言」が採択されました。

(次頁下段へ)

小田委員長挨拶《要旨》

冒頭、福知山線で亡くなられた犠牲者の皆様のご冥福と、ご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。負傷された皆様にはお見舞いとともにも1日も早いご回復をお祈りし、関係者の皆様には心からお詫びを申し上げます。二度と大惨事が起きないよう、全力を挙げることを誓います。

私たちは91年の信楽高原鉄道事故以来、JR西日本の営利優先・運行第一の経営姿勢を糾してきましたが、改めさせることができませんでした。それを容認してきたJR西労組＝JR連合にも責任があります。国土交通省に提出された「安全性向上計画」は、そうした体質を何ら反省することなく、現場に責任を押しつけるだけの対処療法でしかありません。JR東労組は「責任追及から原因究明へ」の安全哲学で、安全な職場風土を創ってきた経緯があります。国鉄改革の精神を「職場からの挑戦」を通じ、JR総連結成20年の検証へと繋げましょう。

反弾圧の闘いがILO勧告や日弁連の警告書などによる逆包囲網の形成に対し、不当な「再差押え」により新たな弾圧も画策されています。「危機でもあるが転機でもある」この時期に、JR浦和電車区事件の完全無罪の闘いをさらに進めましょう。

2005年春闘は連帯の再創造を掲げ、反グローバルイズムJR春闘としてALL JR WORKERSで闘ってきました。

戦争とファシズムの暗雲がたちこめる中「抵抗とヒューマニズム」を忘れず、平和と人権、民主主義を守るために、反グローバルイズムの旗を掲げ闘っていきましょう。

JR西日本・福知山線脱線転覆事故

緊急シンポジウム 検証

JR福知山線事故 - その原因と企業体質を問う -

107名の死者を出したJR福知山線脱線事故。JR総連は、事故の原因究明とJR西日本の企業体質を問うシンポジウムを5月24日、東京・星陵会館ホールで開催しました。

400名を超える参加者全員で犠牲者への黙祷を捧げたのち小田委員長は「高見運転士も犠牲者」であるとして、JR西日本に対して、原因究明の「公開質問状」を出しましたが回答はなかったことなどが報告されました。ジャーナリスト・大谷昭宏氏は講演で、「遅れてごめん」で済むことが効率化と速さを追い求めすぎたため多くの人の命を奪う背景になったのではないかと語られました。

パネルディスカッションでは、富士常葉大学教授・吉村秀實氏、日本ヒューマンファクター研究所所長・黒田勲氏、JR西労中央執行委員長・田村豊氏、JR西日本現役運転士の幸（みゆき）義晴氏により、JR西日本の職場の実態と事故原因、会社のスピード至上主義、日勤教育の問題など鋭いメスが入られました。問われているのは原因究明と再発防止策のほかJR西日本の企業体質であるなど、参加者は、追悼の意を表わすとともに今後の課題を深く胸に刻みしました。



JR西労 107名の御魂に誓う！ JR西日本の真の安全を創りだす集会



JR西労は、JR福知山線事故から1ヵ月目となる5月25日、事故犠牲者のご冥福を祈る追悼集会を開催しました。集会にはTASK(鉄道安全推進会議)の吉崎会長ほか、JR西日本から日勤教育を強いられ自殺した服部匡起さんの父親の榮さん、韓国からICLS林(ソク)国際運営委員長、大邱(テグ)地下鉄労組李(イ)委員長、韓国鉄道労組金(キム)委員長のほか鉄道労組代表2名や全国の各単組から600名以上が参加。会社の「安全対策」と称する施策は利用者を欺くものだとして、「日勤教育」や「裏面添乗」の中止と会社の体質を変革していくことを全体で確認しました。

企業体質変革が重要課題

(前頁より)

大会ご来賓

連合・笹森会長 / 交運労協・設楽議長 / JR北海道・中島専務 / JR東日本・佐々木常務 / JR貨物・田村専務 / 日本テレコム・有田常務執行役 / 鉄道情報システム・田尾専務 / 鉄道総研・中道総務部長 / えん罪 JR浦和電車区事件を支援する会・飯沼事務局長 / JR総連顧問・水嶋弁護士 / JR総連議員団・金田団長 / JR総連OB連絡会・小澤会長 / 美世志会・梁次氏 / (ほか23名)



ご来賓のほか、北側国土交通大臣をはじめ多くの皆様よりメッセージをいただきました。お礼申し上げます。



長期にわたりJR総連に貢献いただいた方に、表彰をおこないました

奥野善教さん(中国地協)・安部和年さん(近畿地協)・玉盛 清さん(JR総連)・故佐藤登志夫さん[代]・ご子息和哉くん[JR西労]

えん罪は司法による犯罪だ！ 全国賛同者学習・交流会を開催

「えん罪」JR浦和電車区事件を支援する会」は、5月14日東京・飯田橋ホテルエドモントで「5・14全国賛同者学習・交流会」を開催しました。

この学習・交流会には全国から100名の賛同者が参加。JR総連から山下書記長が、この間の闘いとILO「勧告」と日弁連の「警告書」の持つ意味について報告をおこないました。支援する会はILO「勧告」や日弁連の「警告書」をただちに履行することを強く日本政府に求めることを確認。最後に、支援する会の組織拡充と、世論喚起をおこないつつ、公正な裁判による7名の無罪をかちとるまで運動を強固に進めていくとした集会アピールを全体で確認しました。

その後の懇親会では全国の賛同者がはじめて一堂に会し、えん罪に学び・交流を深める有意義な場となりました。



ビルマ軍事政権による 労働者への弾圧を許すな！

ビルマ海員組合のリーダー弾圧にICLSが統一抗議行動

ビルマ海員組合のリーダー・コーモナーナウン氏が5月19日、タイ国内からビルマに連行され、拷問で



死亡したといわれています。現在ビルマでは組合活動が認められておらず、軍事政権による監視と弾圧の最中での事件です。

JR総連はこの殺害事件と弾圧に

抗議するため6月2日、美世志会、在日ビルマ海員組合と合同で駐日ビルマ大使館への抗議行動と、タイ大使館への要請行動をおこないました。ビルマ海員組合はJR浦和電車区事件の7名の勾留に対し、タイ・バンコクで日本大使館への抗議行動を2003年に取り組んでいます。

ビルマ大使館はJR総連からの「抗議文」の受け取りを拒否。大使館前で抗議のシュプレヒコールをおこないました。タイ大使館では公使と会談し、事件の説明と調査を要請しました。公使からは「タイ本国に問合せ調査したい」旨の回答を得ました。

この事件に対する抗議行動はICLS（国際労働者交流センター）の統一行動として、日本、韓国、フィリピンで同時に行われました。グローバリズムに抗して、労働組合への侵害に対する闘いへの労働者の国際連帯は、広がっています。



森びとプロジェクト委員会主催 「第1回足尾・ふるさとの森づくり」 JR東労組が協賛

トロッコ列車に乗って足尾に緑を再生しようと“山と心に木を植える『森びとプロジェクト委員会』（岸井成格委員長）が5月28日「第1回足尾・ふるさとの森づくり」を開催しました。苗木の植え付けは、宮脇昭横浜国立大学名誉教授が指導にあたり、750名の参加者は、樫やくぬぎなど13種類、3650本を植えました。

この森づくりは、林野庁、栃木県、足尾町の他、自然保護団体やジャーナリストなど幅広い分野に呼びかけ実現。地域に根ざした活動をめざしています。

協賛のJR東労組森づくり推進委員会・清水事務局長は、「私たちはこれまで労組の社会貢献として、心身にハンディをもった方々へ『北海道・旅のプレ

ゼント』や『北海道・大沼の森づくり』などに取り組みできました。今回その経験を活かし、煙害と鉱毒で荒れた足尾を拠点に、その土地本来の森の再生と人づくりに取り組みます。土にふれ、木を育てることで、命の大切さや力を合わせて取り組むことの大切さも知ってもらいたい」と話しています。

次回開催は、10月15日「苗づくり」。参加の希望、活動の詳細は、「森びとプロジェクト委員会」まで。

(<http://www.moribito.net/>)



世界的な異常気象で迎えた春のアフガニスタンで2005JRU - PAC活動開始！

アフガンチーム活動報告

アフガンから
アッサラーム・ア・レイコム
第25回

2005JRU - PAC
スタート...!

物価高がすすむアフガンで

カブールへ到着して、約2週間。最低気温 - 0.5 という日もあり、日本なら真冬の朝が続きます。しかし、昼間は28 くらいまで上がるので、冬から初夏の陽気を1日の中で体感できます。今回はSORA・JRU PAC事務所の引越しの経緯を通し、カブールの近況についてお知らせします。



新しい事務所

カブールは、いつも春先になると物価高で、今回も早速事務所の家賃の値上げの話が持ち上がり、今までの1.5 ~ 2倍近くまで値上げしたいと大家さん。交渉しても、値上げは避けられないと判断し、急ぎよ、格安物件探しをはじめました。新しい事務所は、カルテセーという以前住んでいた事務所の近くに居るかたちになりました。現在引っ越し真っただ中のJIFFメディカルセンターにも歩いて5分の、ハザラバザール沿いにあります。

新事務所は旧事務所の半分の広さの建物ですが電気も通じていて、パソコンなどやるのにイチイチ発電機を回さなくても良いのでとても便利です。ただ、予想通り停電も多いし容量も少ないので、冷蔵庫などのある生活は望むべくもありません。またバスルームの

排水も悪く、ペットボトルシャワーとしゃれこむことも今のところむずかしそうです。

今日2週間ぶりにハマーム（公衆浴場）に行き、体を洗いましたが、入浴料が10AF（アフガニー：1AFは約2円）から15AFに値上げされていました。その他にも、主食のナーンが4AFから6AFに、少し大きく焼いて8AFとか、カバブという串焼肉は45AFから55AFへ上がるなど、庶民生活に直接ひびくものが軒並み値上がりしています。というわけで風呂にも入れず、ノミに食われながらのJRU - PACのアフガン支援4年目ですが、SORAと協力しながらスルハバット郡での2校（ダルカ村・チュラン村）の小学校の完成と、農業試験場での八升豆の栽培の成功を目指して頑張ります。

異常気象で小学校が...

今年のアフガンは雪が非常に多く、その雪解け水の被害が各地で報告されています。そして、なんと一昨日（4/21）朝8時、支援地であるスルハバット郡のダルカ村から1人の村人が、「雪解け水で小学校の一部が流された」という第一報を持ってSORA・JRU - PAC事務所を訪れました。

幸い怪我人はいないということなので一安心。流されたのは8教室ある中の西側の3教室ということで「修復可能か。いや、そもそも完成しても来年同じ状況にはならないか。建物の裏に大きな側溝を造れば...いや、水の勢いを考えると危険か...」等、ネガティブなことばかりが頭をよぎります。

早速、イスラマの督永さん・堀さんに報告。とにかく「現状把握を！」ということで、SORAの渡辺先生（少林寺拳法の大家）と、現地スタッフのファリードとサリーム、ドライバーのアクバルというチームで昨日、現地に向かいました。村人の話によれば、私たちの予想に反して山は雪をかぶって



大雨で一部が崩れたダルカ村小学校

いますが道はドライ。額面通りドライなら、スムーズに進んで約200kmの道のりを8時間~10時間で村に着くはずですが、スタック、パンク...数々のトラブルを予想して出発。途中ダルカ村によって現状調査をし、午後3時半にタイラシャック村に無事到着。「流水で3教室の土台が斜めになり、屋根も傾いているが、村人たちが自分で直せるとちやうかなあ」というのが渡辺先生からの報告の第一声でした。ということで、今後の方向性は調査チームの報告を受け、さらに現地へ行って村人から話を聞いたうえでの検討ということになります。結構ショックを感じているというのが私の現在の正直な気持ちです。

（カブール 田城）

アフガン情勢速報

JVC（日本国際ボランティアセンター）
谷山さんから緊急連絡

5月11日、アフガン東部のナンガルハル大学の学生らによる大規模なデモが発生。国連事務所や現地NGO事務所が襲撃され、全国に波及しました。直接引き金となったのは米軍のコーランへの不敬事件のようですが、アメリカ軍による「誤爆」など、半永久的駐留への反発とも見られます。一方アフガンへの援助資金を海外のNGOが流用しているといった批判もあり、NGO規制の法準備もおこなわれています。国会選挙を前に、アフガンの人々にとっても困難な時期を迎えています。